

▼カーネーションなどで花束を作る佐古さん



プリザーブドフラワーとは、溶剤を用いて加工することで、きれいな状態のまま長期保存ができ、生花とは違った独特の質感や色を雑貨感覚で楽しめる花のことです。

今年3月、贈る人と贈られる人の双方に満足してもらえるフラワーギフトを生み出したいという思いから開催されている「第10回この花コンテスト」の結果が発表され、佐古さんは、プリザーブドフラワー部門で全国3位に選ばれました。6年前に花屋に嫁いだことがきっかけで花の仕事を始め、コンテストに応募したのは今回が初めてでした。昨年12月に中国・四国地区の代表を選出する予選で1位となり、今年の1月から3月までインターネットを通じて投票を行う本選へ出場。思いがけない

結果に驚いたという佐古さんは、今回のコンテストで「挑戦しなきゃ何も始まらない」と実感したそうです。プリザーブドフラワーのデザインには、人形といった装飾品などを使用できるためアレンジの幅が広がり、より自分らしさが出せるそうです。お客さんに「かわいい」「きれい」と思ってもらえるポイントを作り、配

色の工夫やボリューム感を出すように作成されています。また、プリザーブドフラワーに限らず生花で花束やアレンジメントを作る際にも、贈る人の「想い」を考えながら、そのイメージに近づくよう心掛けています。

「贈ったものが喜んでもらえたというお客さんからの報告や、何度も足を運んでくれるお客さんに、初めのうちは細かくイメージを聞いていたのが、だんだんと信頼してもらえて『おまかせで』と言ってくれる」と、作ったときの気持ちが伝わったと思え、喜びへつながるそうです。

今後の目標を聞いてみると「経験はまだですが、また贈りたいと思ってもらえるフラワーデザインをしたいです。日常生活の中で花に触れる機会を増やして花をもっと身近に感じてもらうとうれしいです」と笑顔で話してくれました。



花をもっと身近に
感じてもらいたい

Vol.49

佐古 真紀子さん
(今津町在住)

フラワーデザイナー。
6年前、結婚を機に幼稚園教諭を退職して花屋へ。「第10回この花コンテスト」プリザーブドフラワー部門に中国・四国地区の代表となり、全国から代表が集う本選で3位に選ばれる。



▲本選での作品「love melody」



▲中国・四国地方での予選の作品
「with you」

